２　各教科の調査結果に見られる課題と改善方策

（１）小学校国語

①　情景描写の効果を捉えること【A３】

３

次は、南田さんが想像したことをもとにして書いている**【物語の一部】**です。南田さんは、橋本さんから助言をもらっています。あとの**【二人の会話の様子】**の［　　］の中に入る内容として最もふさわしいものを、**１**から**４**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【物語の一部】

良太は、小学三年生の男の子。春休みに、大きな町から引っこしてきました。四月、引っこした先の学校に通い始めましたが、はずかしがり屋の良太は同じ学級の人に声をかけることができませんでした。

おだやかな風がふく、ある日のことです。学校から家に帰った良太は、近くの公園に出かけました。その公園は、学級のみんながよく遊んでいる場所です。学級のだれかと会って話をしたくて、そこでじっと待つことにしました。しかし、公園にはだれも来ません。

良太は、さびしい気持ちでいっぱいになりました。

「こんなところなんてきらいだ。友達なんていらないや。」

と、小さな声でつぶやきました。

～（物語が続く）～

【二人の会話の様子】

南田　――部では、良太の気持ちを「さびしい」と表現したけど、「さびしい」という言葉を使わずに、うまく表現できないかな。

橋本　それならば、その気持ちを［　　］で表したらどうだろう。

南田　それはいいね。（しばらく考える。）

では、**「いつの間にか灰色（はいいろ）の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」**としたらどうかな。

橋本　そうだね。そのように書きかえると、「さびしい」という言葉を使わなくても、読み手に良太の気持ちや様子を想像させることができると思うよ。

～（会話が続く）～

１　良太の顔の表情
２　良太の心の中の声
３　良太の周りの風景
４　良太の行動

【正答】　３

正答率（%）兵庫県：５８．５、全国：５８．７　　**無解答率（%）**兵庫県：０．３、全国：０．２

〈誤答の状況〉

・「１　良太の顔の表情」・・・16.5%
・「２　良太の心の中の声」・・・13.3%
・「４　良太の行動」・・・11.2%

〈主な原因〉

①　「１　良太の顔の表情」を選んだ原因として、良太の「さびしい気持ち」と「だんだんと暗くなってきました」という表現を重ねて捉えてしまったことが考えられる。さびしい気持ちの時に暗くなるものを表情だと思いこんだことがうかがわれる。

②　「２　良太の心の中の声」を選んだ原因としては【物語の一部】の最終部分との関係が考えられる。「小さな声でつぶやきました」が良太の最後の行動である。小さな声と心の中の声を重ねて捉えてしまったと考えられる。

③　「４　良太の行動」を選んだ原因として、「……そこでじっと待つことにしました。」「……小さな声でつぶやきました。」の良太の行動を「さびしい気持ち」と捉えたと考えられる。

④　【物語の一部】のみを読んで、【二人の会話の様子】を読んでいないのではないか、特にキーワードとなる“「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうかな。”に気づくことができなかったのではないかと考えられる。

〈今後の指導に向けて〉

文学的な文章を扱う授業において、優れた心情描写の表現に注目できる授業を展開していく必要がある。優れた心情描写は比喩表現、特に暗喩が用いられることが多い。風景による心情描写がまさにそれに当たる。言語感覚を養うために、描写の工夫（表情，風景など）の効果を理解できるように指導するだけでなく、登場人物の心情などを暗示的に表現しているものとしても捉えることができるよう指導していく。時間に合わせて、以下のような指導を行うことが考えられる。

【例　５年「大造じいさんとガン」（光村図書５年）に見られる風景による心情描写を扱った授業】

「大造じいさんとガン」に見られる心情描写

「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。（P112～113）

青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。（P112）

など

① 印象的な心情描写について取り上げる。

② その表現がある場合とない場合ではどのように受ける印象が変わるかを話し合う。

（例）「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」

- **東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。（原文）**
- 朝が来ました。

「東の空が真っ赤に燃えて」が入る場合と入らない場合では受ける印象がどう変わるだろうか。

- ある方が大造じいさんの闘志が伝わってくる。
- じいさんにとって決戦の日だとわかる。
- 赤からじいさんの本気が伝わってくる。

③ 文章中に他にも同じような表現がないかを探して受ける印象を話し合う。風景による心情描写の効果を確認していく。

（例）青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。

※風景による心情描写は高学年において扱う。他学年において行ってもよいが無理のないように扱う。このような授業を単元の中に計画的に取り入れてみる。

授業例以外には次のような活動によって比喩による心情描写の力を高めていくことができる。

宿題などで行うことができる活動

〇比喩表現を使った短文作り

① 文章中に出てきた暗喩を使っていくつかの短文を作る。

（例）青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。

同じような意味（すがすがしい、さわやかな）で「青い」を使った短文を考える。

② 「楽しい気持ちを表す風景」というように心情をテーマとした文章表現を考え，考えた表現を用いて短文を作る。

（例）「きらきらと輝く月」

③ 段階に応じた比喩表現を使って短文を作る。

・「りんごのようなほっぺた」など直喩的な表現を用いた短文を書かせる。

・「お母さんが鬼の顔になる」などの暗喩表現を用いた短文を書かせる。

・高学年においては「空が真っ赤に燃えて運動会の朝をむかえた」などの情景描写にともなう心情表現を意識させる。

↓

「書いた短文を見合って，どんなところがいいかを伝え合いながら今回のベスト短文を選ぶ」といった活動につなげて行う方法もある。

時間があれば行うこともできる言語活動例

〇表現カルタを作ろう。

単元終了後にその単元からさまざまな比喩表現を集め，カルタを作製する。読み手側が「表現」を読み，それが表す登場人物の心情が書いたカードを取っていく。

青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

うたれたごんの悲しさと兵十のこうかいの気持ち

※この活動は単元に出てきた心情描写表現を単に確認するためのものであるため繰り返し行わないようにする。繰り返すと「青い」＝「後悔」といった固定観念を子どもに作ってしまう可能性がある。

ポイント

- **情景描写のある場合とない場合で、どのように読んだ感じが違うのか話し合う活動を取り入れる。**
- **学んだ比喩表現を使って短文を作る活動を、授業中に口頭で言わせたり、ノートに書かせたりして積極的に位置づける。**
- **授業で扱った表現の工夫の中からいくつかを指定し、意図的に使わせて、物語の創作、解説文の作成、日記の記述等に取り組ませる。**